
雪の華

桜華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の華

【Nコード】

N9982Z

【作者名】

桜華

【あらすじ】

紅い眼を持つて生まれた為に、悲痛な幼少期を過ごしたカイ。未来を予知する先読みの才を受けたカイは、ある日自分と同じような境遇である双子を夢に見る。

序章（前書き）

ファイを幸せにしたりはじめてました突発小説です。こんなもので宜しければ、ゆるりとお楽しみ下さいませ。

序章

夢を見た。

子供が泣いている夢。

絹糸の様なふわふわのブロンドに、透き通るサファイアの瞳。
瓜二つの小さな背中では頼りなく、小刻みに揺れていた。

子供は双子だった。

ああ、彼等も咎を負わされたのか。

己の紅い眼を隠す様にそつと左の掌で覆う。醜いと父に罵られた両の眼。当に薄れたと思っていた痛みが、じくじくと現実味を持って蘇ってきた。

己の内に秘めた傷痕は、誰にも拭われることなく膿を孕み、未だこうして私を苦しめ続けている。

この痕はこの先もずっと、癒えることなどないのだろう。

ふと、双子の顔が過ぎった。

本来、一つである筈の魂は、一体何を念うのだろうか。お互いが、お

互いの存在を否定しなければならない。そんな皮肉な星の定めにある彼等。それでも、不思議と彼等の瞳には、憎悪など微塵も感じられなかった。

その無垢な瞳を守ってあげたいと、そう願ったのは何時の頃からか。

真っ白に塗り潰される眼前。

音も光も総てが飲み込まれ、一面の白が総てを覆う。

世界が閉じる、その瞬間。

双子の幸せを願った。

閉じた世界で祈った。

虚ろには、彼等が酷く眩しく見えたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9982z/>

雪の華

2011年12月30日22時45分発行